

キンダーブックに浮世絵を入れたことに就て

倉 橋 惣 三

九月のキンダーブックをスポーツ号とするについて、絵はそれ／＼のスポーツに興味をもたれる諸画伯にお願いしたが、角力は国技だし、今も伝来の古式が堅く守られているものだし、これは是非昔からの古画でいききたいものだと考えた。といつて、雪舟、探幽にそういう絵のありそうにも思えないので、浮世絵でいくがよからうけれども、歌麿にはもとより、祐信、春信の美人画や、適当の内容を探しても見当りそうもない。もつと無邪気なところだと、人形絵おもちや絵蒐集家山田徳兵衛氏に相談することとした。山田氏は浅草区（今の台東区）浅草橋の有名な雛人形のお舗吉徳商店主で、吉徳さんでおしている古い懇意であるからキンダーブックのために、ひとつ門外不出の宝物をどうぞとかけあつてみた。初めは、寛政大力士連か、せめて、常陸山、梅ヶ谷へんの堂々たる土俵入り姿でもと、（

これはわたしの子供の時の思い出もあるしと）考えたが、提供せられたのを見ると、金太郎、桃太郎の大取組である。浮世絵師の中から撰んで依頼するとして、国貞の他人がない訳でもなからうが、キンダーブックスポーツ号として、この一枚に優る適切なものはあり得ない。そこで、印刷の方を特別に念を入れさせ、また木版の古色を失わないように、浮世絵の色と線との味を出すように、精々注意してもらつた。そのために、他のページとは或は調子のあわないことになるかとも思つたが、それは、新は新、古は古と、各原画に忠実をはかつた結果である。子供絵本はいうまでもなく「いま」のものである。内容ばかりでなく、絵柄としても「いま」であることが当然である。しかし、美術としては、自国の古いものにも触れる機会を子供に与えたいというのが、わたしの予てからの主

張である。このことは、国粹的とか、史的興味とかいうことではなく、ヨーロッパや、あの新しいアメリカでも、美術館に極く古い古美術のコレクションなどが陳列してあり特に子供のために、その鑑賞に意を用いられてあるのを見た時から深く感じていたことがある。キシダブツクのような雑誌で、それを試みるのは野心すぎるかとも思い、又、その号のテーマ次第によつてと思つて、容易にその機会がなかつたのだが、この号では遅疑するところなく、この宿望を実行してみたのである。広くは皆さんに御議論のあるかもしれないが、若し、古いものは子供に分らんといい御意

私 と 浮世絵

山田徳兵衛

見だつたら、よき芸術品に限り、決してそうではないと、私は主張する。勿論、幼年絵本は昔の絵草紙を、おぼあさまの古つゞらから出して貰つたようなものでいゝというのではない。しかし、絵柄さえ不適当でなければ、おぢいさまのお床の間の掛軸の中にも、孫に見せたいものがあつて不思議はないと思うのである。そして、子供は案外あの可愛い目で鑑賞する。少くも鑑賞の素地を養われると思つたのである。幼児絵本のために新しい試みをしたに就いて念の爲一言。

私は、おもちゃや、人形のことを調べるため、それらに関する浮世絵を、眼に入るたびに手に入れたが、それがいつの間にか五六百枚貯つてしまつた。

先ごろの戦災で、大分いろいろなものを焼いたが、この浮世絵だけは田舎へ預けてあつたので、幸い助かつた。

実際、おもちゃや、人形などというものは、専門に書かれた文献が殆ど無いので、つい百年か二百年前のものを調べるのにも、偶然にそれらを手に持つている人物の浮世絵などを漁らなくてはならない不便がある。尤も、これは、浮世絵に限つたわけでもないが、浮世絵は、多く色彩があ